

## ヒアリングから明らかになった相野釜集落の暮らしと 海岸林の管理やコミュニティの仕組み

2013年8月5日に、岩沼市仮設住宅東集会所において、相野釜集落の住民の方々に、「集落の暮らしと豊かな自然との関わり」についてのヒアリングを行いました。2011年の秋から行ってきたヒアリングや復興まちづくりワークショップによって、貞山堀や松林といった江戸時代から継承されてきた集落の自然や、それらを活かす生活の知恵、人々の絆のつよさなどが徐々に明らかになってきました。今回は相野釜集落の6名の方にお集まりいただき、相野釜集落での暮らしの記憶を後世に伝えていくため、また、これからの復興まちづくりに活かしていくために、より具体的にお話をうかがいました。

ヒアリングでは、相野釜集落の震災以前の航空写真や住宅地図を用いて、図面に描きこみながら、相野釜集落の海岸林の所有・管理や行っていた活動についてや、集落のコミュニティの仕組みについて、また、それぞれの住民の方がお住まいだった住宅の敷地内の様子についてなど、詳しくお話をうかがいました。その結果、相野釜集落では共有地組合で所有していた海岸林があり、植樹や管理を行ってきたことや、国有林も集落で管理してきたこと（図1）、集落内には町内会をはじめ、盆踊りの運営をしていた連絡協議会、消防団員の補助をする婦人防火クラブといったさまざまなコミュニティがあったこと（図2）などが分かりました。また、6名の参加者の方に、住宅の敷地内の建物の配置や植えていた樹木の種類、育てていた作物などをうかがうことができました。そのほかにも、集落南部にかつてあった水辺が長谷釜集落と同じ「前川」と呼ばれていたことや、相野釜にお嫁にいらした時のエピソードなど、多くの貴重なお話をうかがうことができ、充実したヒアリングとなりました。



写真：ワークショップの様子

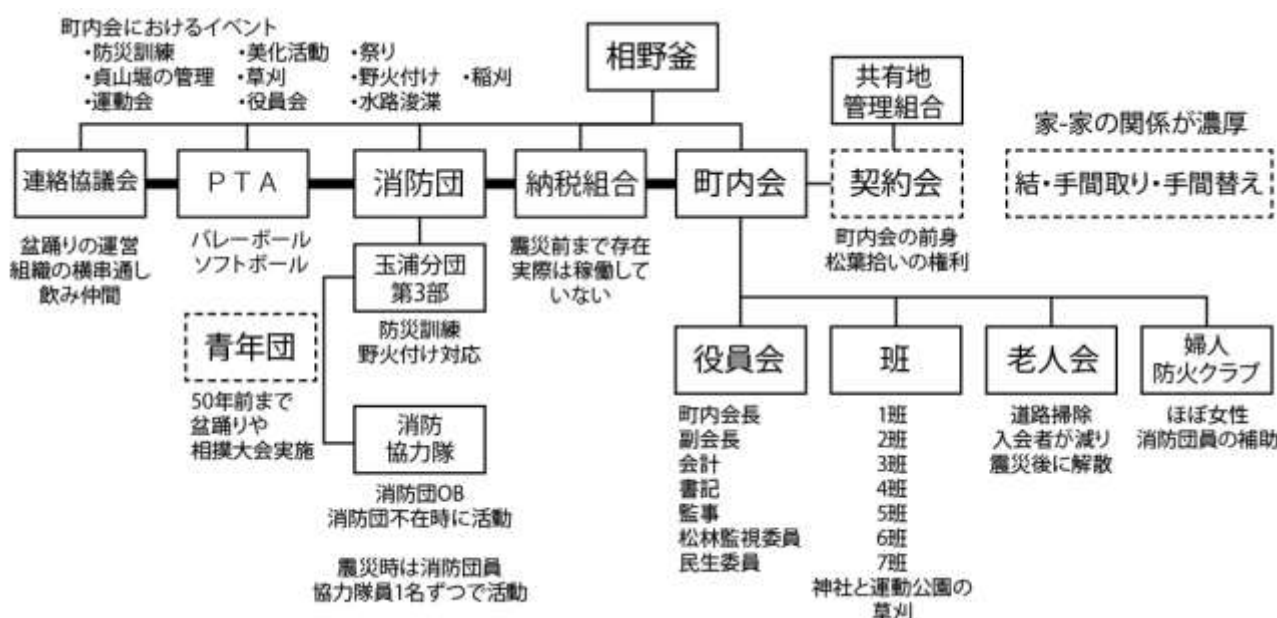


図2：相野釜における町内会・コミュニティ一覧



図1：海岸林の所有と管理